令和５年度（2023年度）

区民意識意向調査報告書

＜ 概 要 版 ＞

練馬区では、区政課題に対する区民意識や意向を統計的に捉え、今後の区政運営の基礎資料とすることを目的として、区民意識意向調査を毎年実施しています。

この冊子は、令和５年度に実施した調査結果の概要をお知らせするものです。

さらに詳しい調査結果については、区ホームページや区立図書館などで、調査報告書本編をご覧ください。

【 調査の概要 】

①調査対象 ・・・・・・・・・・・	区内在住の満18歳以上の男女3,000名 対象者は住民基本台帳から層化二段無作為抽出
②調査方法 ・・・・・・・・・・・	郵送法（郵送配布・郵送回収）または インターネット上の回答フォームでの回答
③調査期間 ・・・・・・・・・・・	令和５年８月２日（水）～８月23日（水）
④回収状況 ・・・・・・・・・・・	有効回収数 1,114　回収率 37.1%
⑤調査テーマ ・・・・・・・・・	１ 区の施策および評価について ２ 防災について

■ 数字の表示について

（１） 図表中「ｎ」とは、その質問への回答者総数のことです。

（２） 回答は、回答者総数を100%として算出し、小数点第２位を四捨五入してあります。このため、回答率の合計が100%にならない場合があります。

（３） 複数回答の質問では、回答率の合計が100%を超える場合があります。

令和５年（2023年）12月

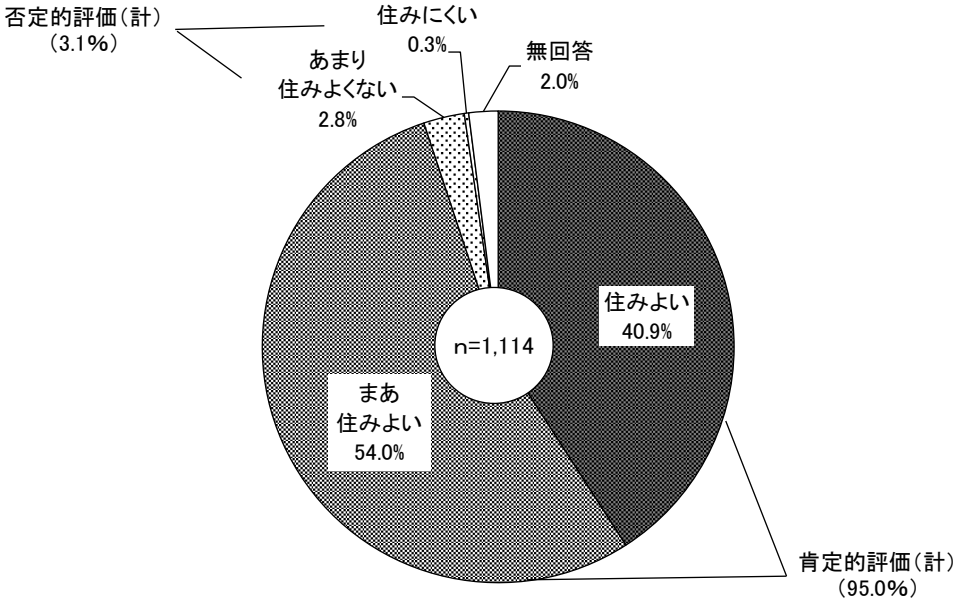
発　行　　練馬区　区長室　広聴広報課
〒176-8501　練馬区豊玉北６丁目12番１号
電話　03-5984-4501　（ダイヤルイン）

１ 区の施策および評価について

（１）住みごこち

◇『肯定的評価』が９割半ば

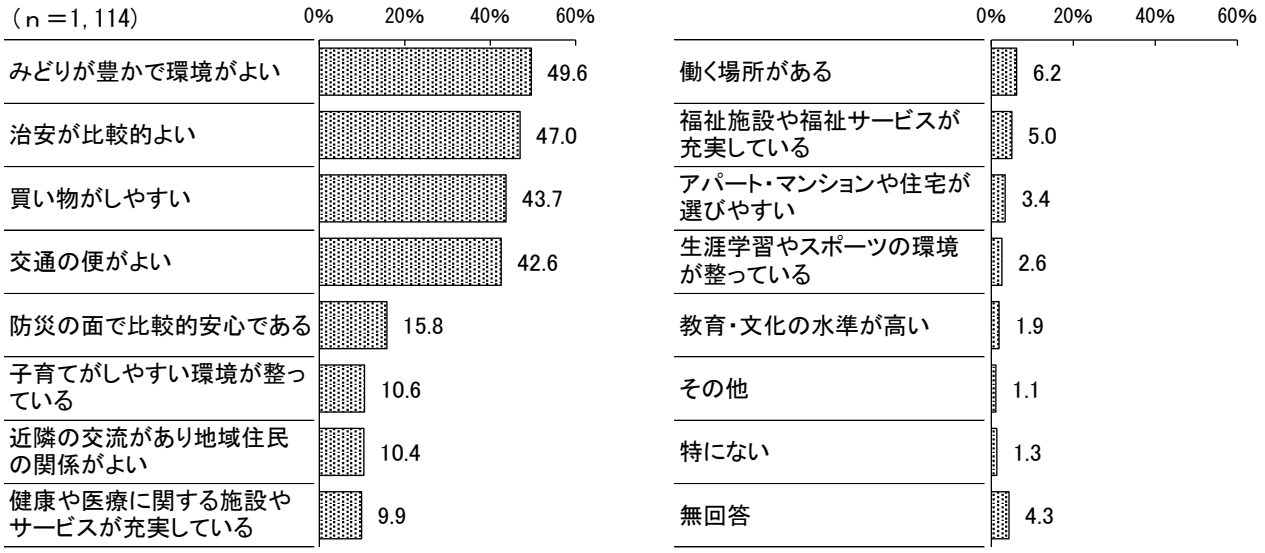
「住みよい」、「まあ住みよい」を合わせた『肯定的評価』（95.0%）が９割半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」、「住みにくい」を合わせた『否定的評価』（3.1%）はわずかとなっている。



（２）練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が５割

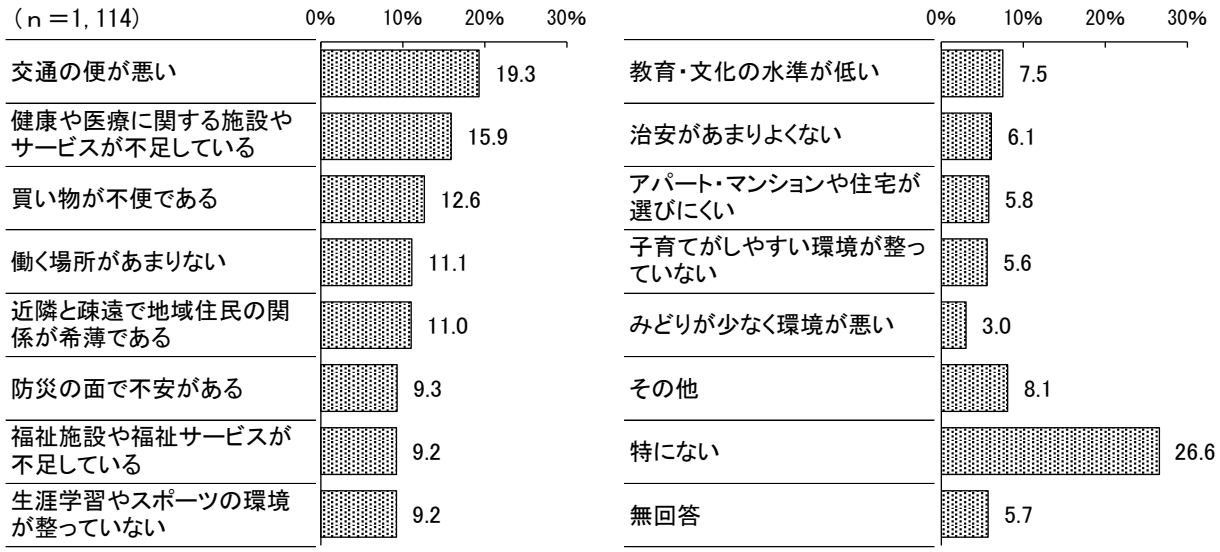
下記の選択肢から、練馬区が住みよいと感じるところを３つまで聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」（49.6%）が５割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」（47.0%）、「買い物がしやすい」（43.7%）、「交通の便がよい」（42.6%）、「防災の面で比較的安心である」（15.8%）などの順となっている。



（３）練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「交通の便が悪い」が約２割

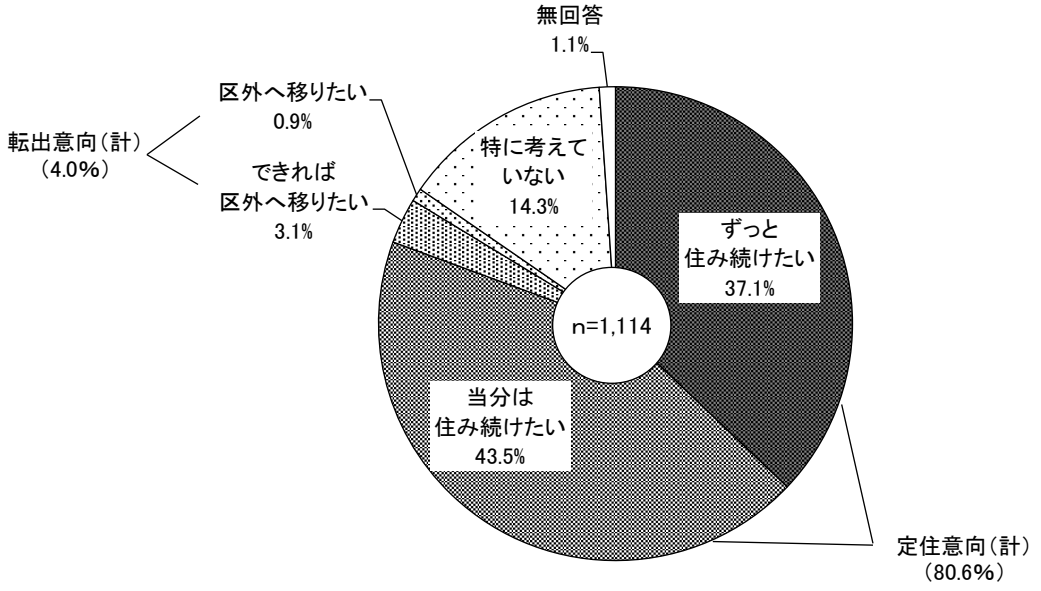
下記の選択肢から、練馬区が住みにくいと感じるところを３つまで聞いたところ、「交通の便が悪い」（19.3%）が約２割と最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」（15.9%）、「買い物が不便である」（12.6%）、「働く場所があまりない」（11.1%）、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」（11.0%）などの順となっている。



（４）定住意向

◇『定住意向』が約８割

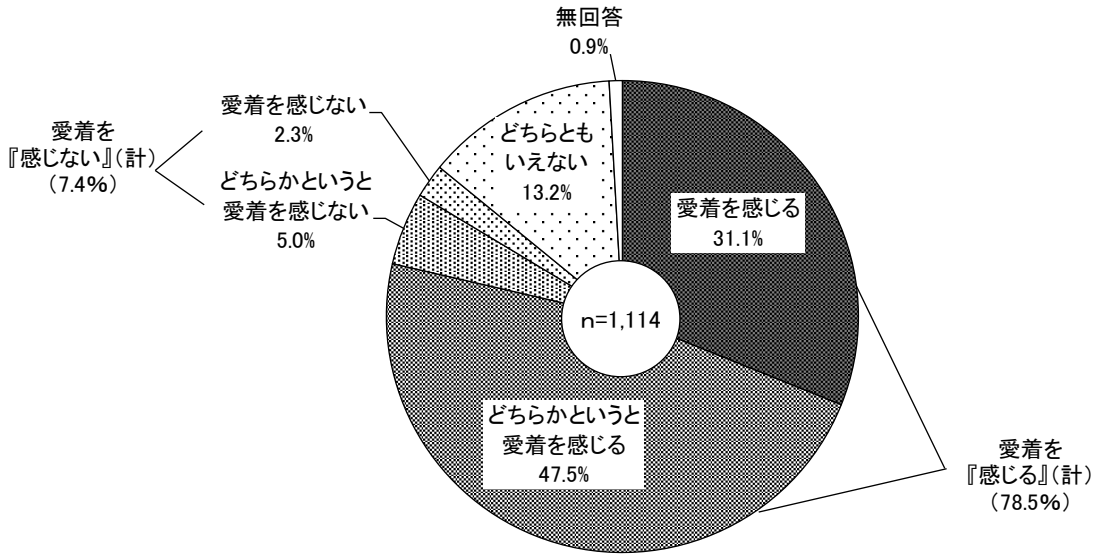
「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向』（80.6%）が約８割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」と「区外へ移りたい」を合わせた『転出意向』（4.0%）はわずかとなっている。



（５）練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が８割近く

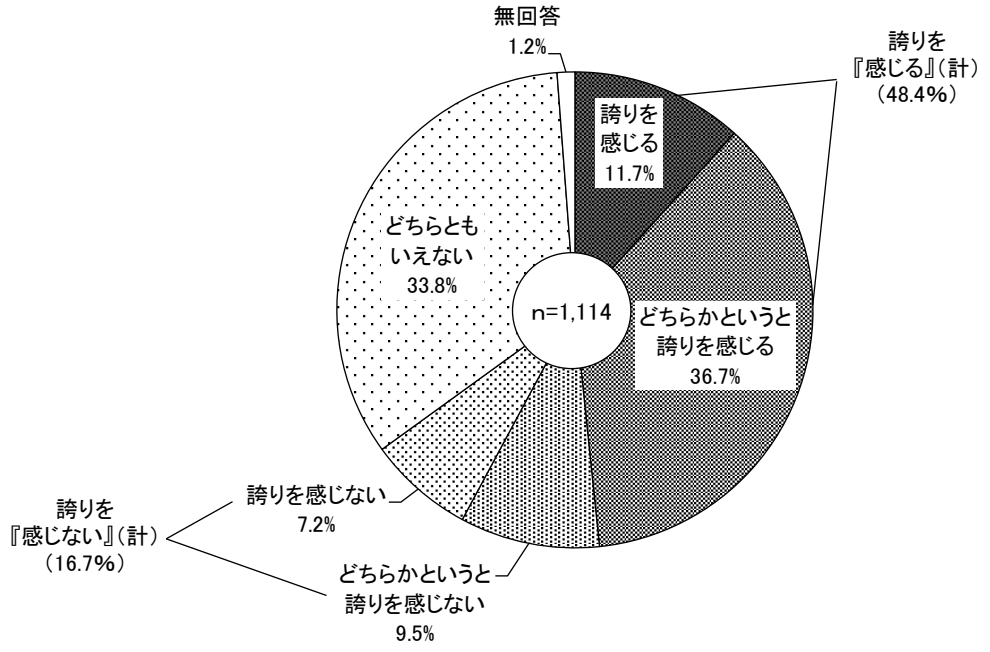
「愛着を感じる」、「どちらかというと愛着を感じる」を合わせた、愛着を『感じる』（78.5%）が８割近くとなっている。一方、「どちらかというと愛着を感じない」、「愛着を感じない」を合わせた、愛着を『感じない』（7.4%）は１割近くとなっている。



（６）練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が５割近く

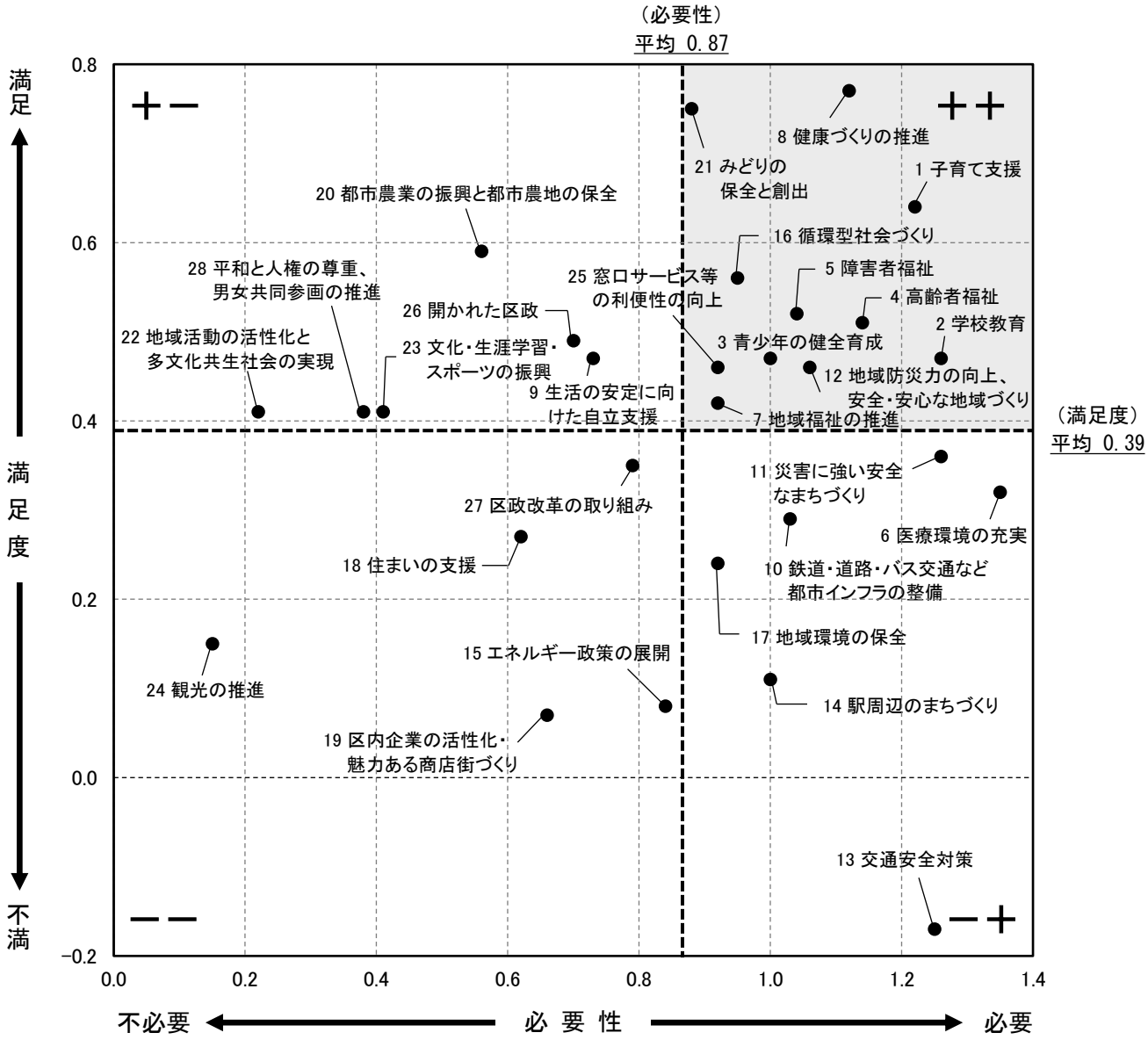
「誇りを感じる」、「どちらかというと誇りを感じる」を合わせた、誇りを『感じる』（48.4%）が５割近くとなっている。一方、「どちらかというと誇りを感じない」、「誇りを感じない」を合わせた、誇りを『感じない』（16.7%）は２割近くとなっている。



（７）施策の満足度と必要性

区の様々な施策に対する満足度と必要性を４段階で伺い、各施策に対する区民の満足度と必要性の相関関係を図に示した。相関図上の位置が上であるほど満足度が高く、位置が右であるほど必要性が高いことを示す。

選択肢	満足度	満足	どちらかというと満足	どちらかというと不満	不満
	必要性	とても必要	必要	どちらかというと必要	あまり必要でない
評価段階		最上位	上位	下位	最下位
評価点		＋２	＋１	－１	－２



◇満足度の高い施策は「健康づくりの推進」、必要性の高い施策は「医療環境の充実」

満足度も必要性も高い（＋＋：網かけ部分）のは、「健康づくりの推進」「子育て支援」「学校教育」「高齢者福祉」「障害者福祉」などである。満足度が低いが必要性が高い（－＋）のは、「交通安全対策」「医療環境の充実」「駅周辺のまちづくり」などである。

（８）施策への要望

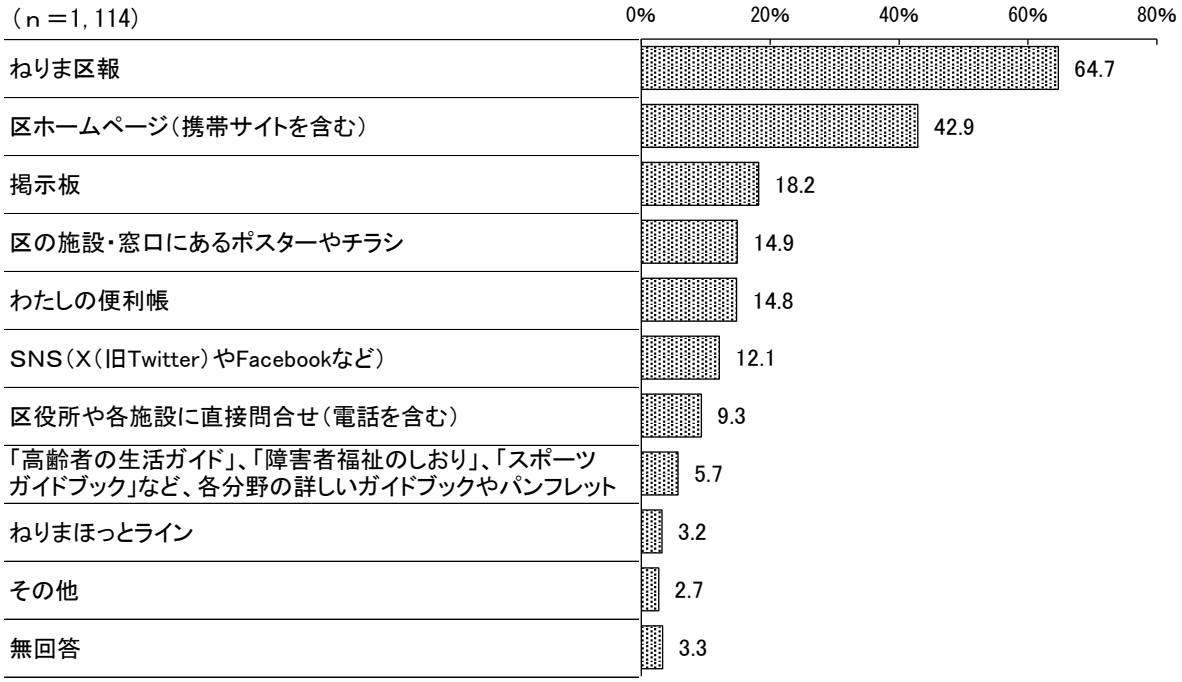
◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が２割半ば

下表の選択肢から特に力を入れてほしい施策を第１位から第３位まで挙げてもらった。その３つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（24.1%）が２割半ばと最も多く、次いで「医療環境の充実」（19.5%）、「高齢者福祉」（19.4%）、「子育て支援」（18.3%）、「交通安全対策」（17.7%）などの順となっている。

（９）区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が６割半ば

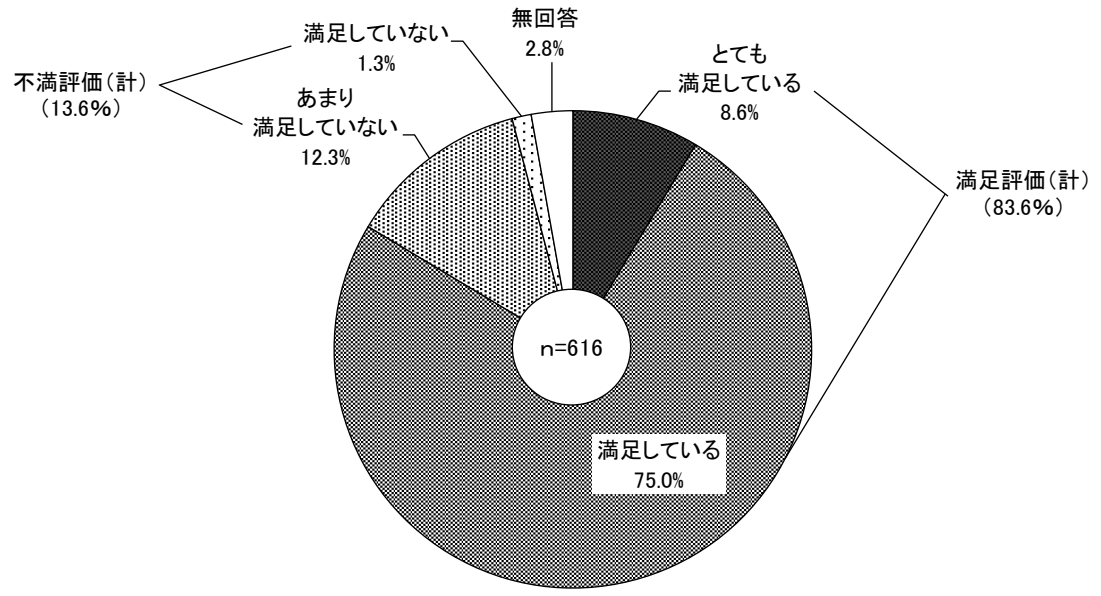
下記の選択肢から区政の情報を主に何から入手しているか３つまで聞いたところ、「ねりま区報」（64.7%）が６割半ばと最も多く、次いで「区ホームページ（携帯サイトを含む）」（42.9%）、「掲示板」（18.2%）、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」（14.9%）などの順となっている。



(10) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』が８割を超える

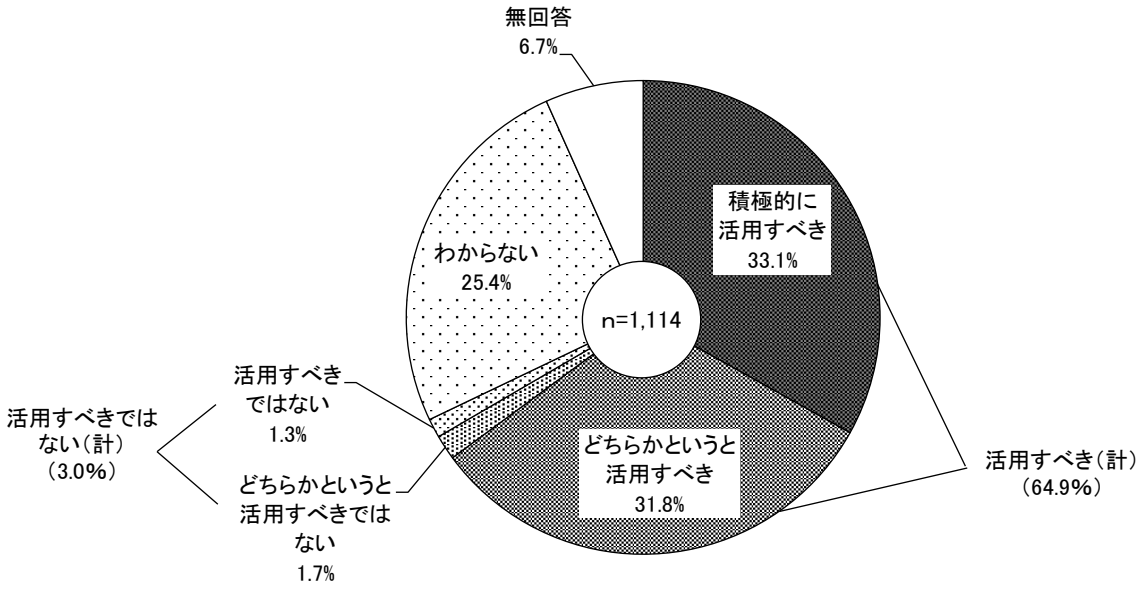
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方（616人）に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」（8.6%）と「満足している」（75.0%）を合わせた『満足評価』（83.6%）が８割を超えている。



（11）区がＳＮＳを活用して情報発信を行うこと

◇『活用すべき』が６割半ば

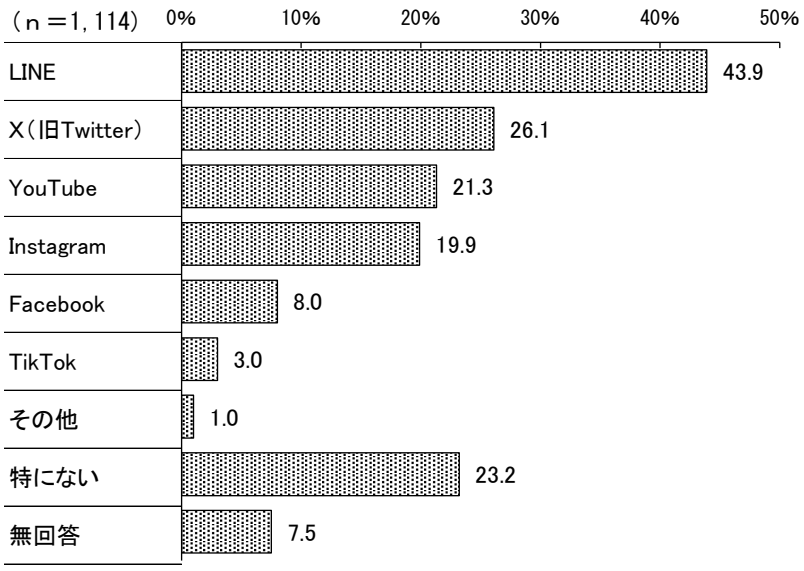
区がＳＮＳを活用して情報発信を行うことについて聞いたところ、「積極的に活用すべき」（33.1％）と「どちらかというと活用すべき」（31.8％）を合わせた『活用すべき』（64.9％）が６割半ばとなっている。一方、「どちらかというと活用すべきではない」（1.7％）と「活用すべきではない」（1.3％）を合わせた『活用すべきではない』（3.0％）はわずかとなっている。



（12）区政情報を入手する際に利用したいＳＮＳ等のサービス

◇「LINE」が４割を超えている

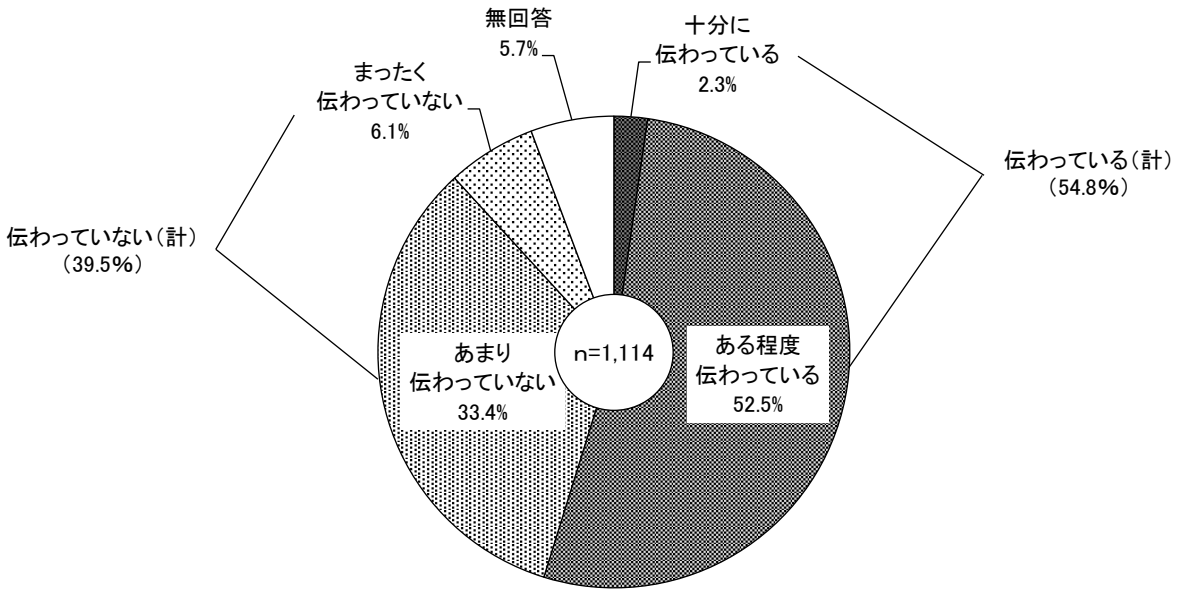
区政情報を入手する際に利用したいＳＮＳ等について聞いたところ、「LINE」（43.9％）が４割を超えて最も多く、次いで「Ｘ（旧Twitter）」（26.1％）、「YouTube」（21.3％）、「Instagram」（19.9％）などの順となっている。



(13) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか

◇『伝わっている』が５割半ば

知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」（2.3%）と「ある程度伝わっている」（52.5%）を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』（54.8%）が５割半ばとなっている。一方、「あまり伝わっていない」（33.4%）と「まったく伝わっていない」（6.1%）を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』（39.5%）は４割となっている。

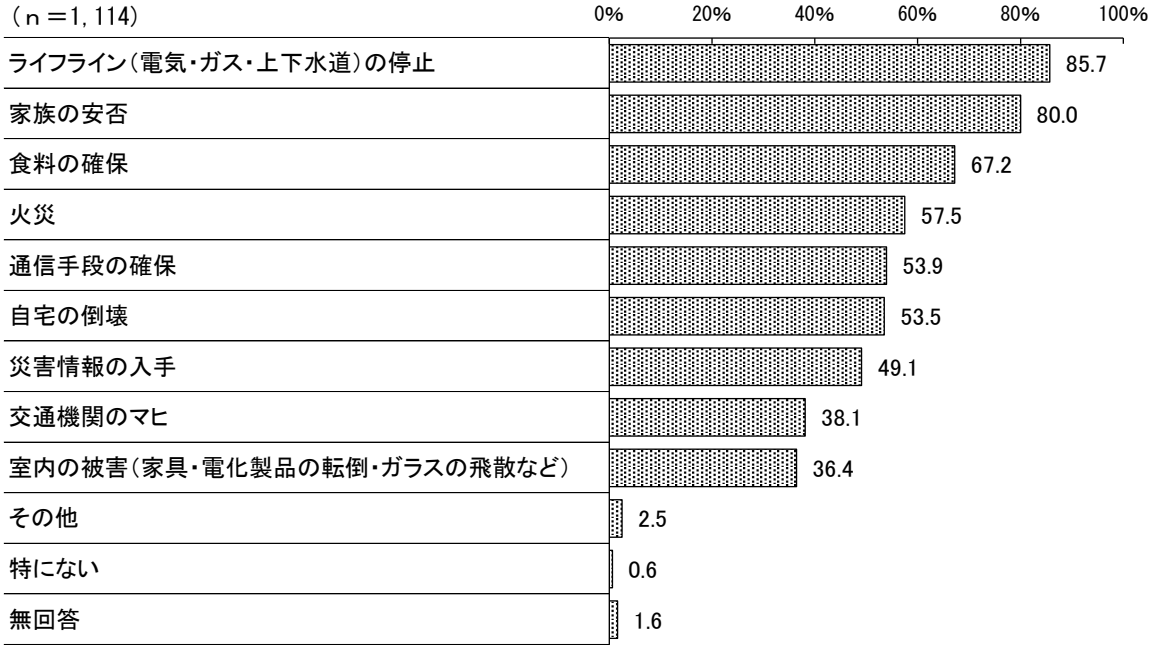


２ 防災について

（１）大きな地震発生時の心配ごと

◇「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」が８割半ば

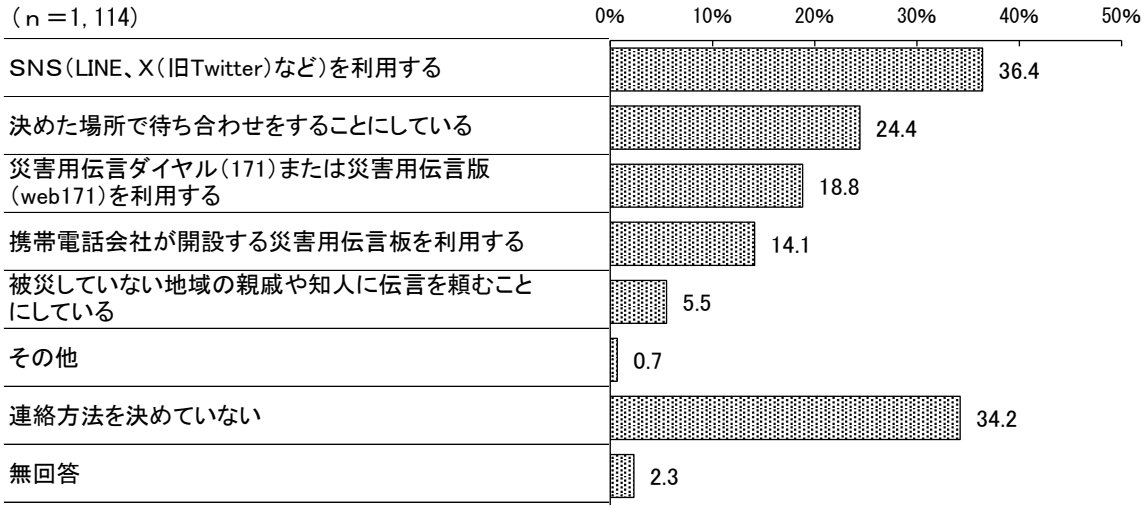
下記の選択肢から大きな地震発生時の心配ごとについて聞いたところ、「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」（85.7％）が８割半ばと最も多く、次いで「家族の安否」（80.0％）、「食料の確保」（67.2％）、「火災」（57.5％）、「通信手段の確保」（53.9％）などの順となっている。



（２）災害時の家族との連絡方法の決めごと

◇「ＳＮＳ（LINE、Ｘ（旧Twitter）など）を利用する」が３割半ば

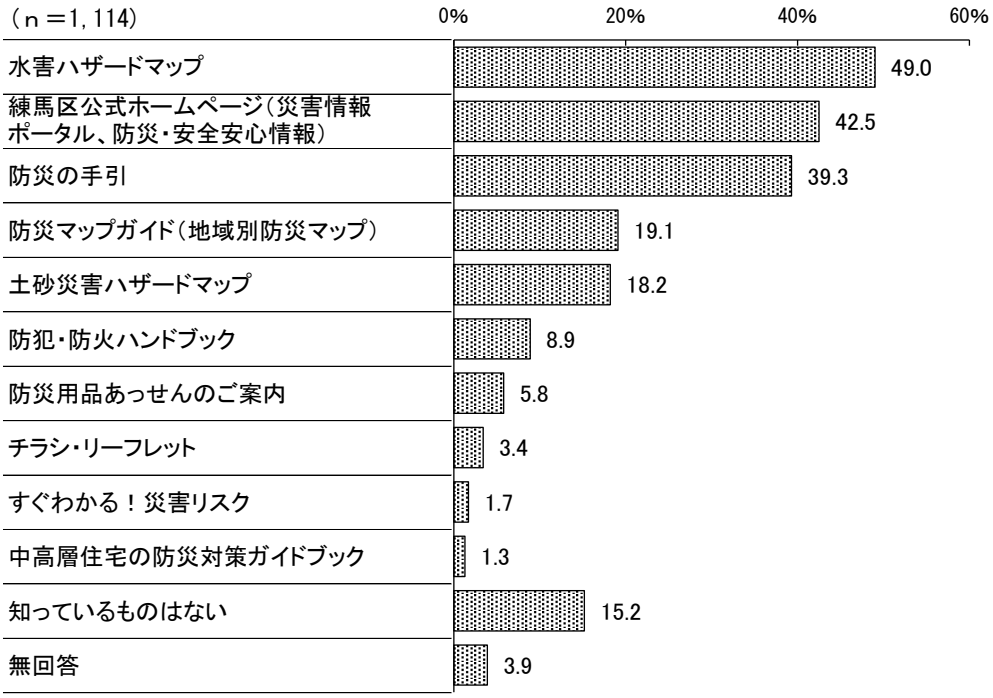
下記の選択肢から災害時の家族との連絡方法の決めごとについて聞いたところ、「ＳＮＳ（LINE、Ｘ（旧Twitter）など）を利用する」（36.4％）が３割半ばと最も多く、次いで「決めた場所で待ち合わせをすることにしている」（24.4％）、「災害用伝言ダイヤル（171）または災害用伝言版（web171）を利用する」（18.8％）などの順となっている。一方、「連絡方法を決めていない」（34.2％）は３割半ばとなっている。



（３）知っている区の防災情報

◇「水害ハザードマップ」が約５割

下記の選択肢から知っている区の防災情報について聞いたところ、「水害ハザードマップ」（49.0%）が約５割と最も多く、次いで「練馬区公式ホームページ（災害情報ポータル、防災・安全安心情報）」（42.5%）、「防災の手引」（39.3%）、「防災マップガイド（地域別防災マップ）」（19.1%）などの順となっている。



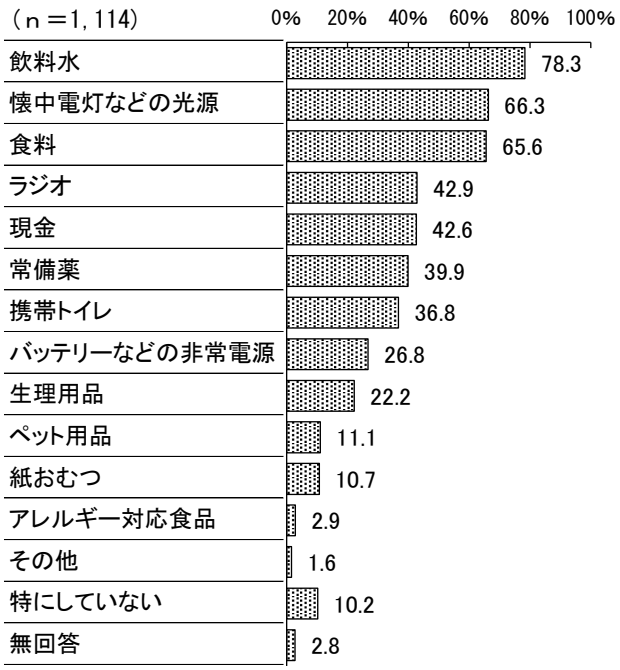
（４）家庭で備蓄しているもの

◇家庭内備蓄は「飲料水」が８割近く
◇非常持ち出し袋は「懐中電灯などの光源」が３割を超えている

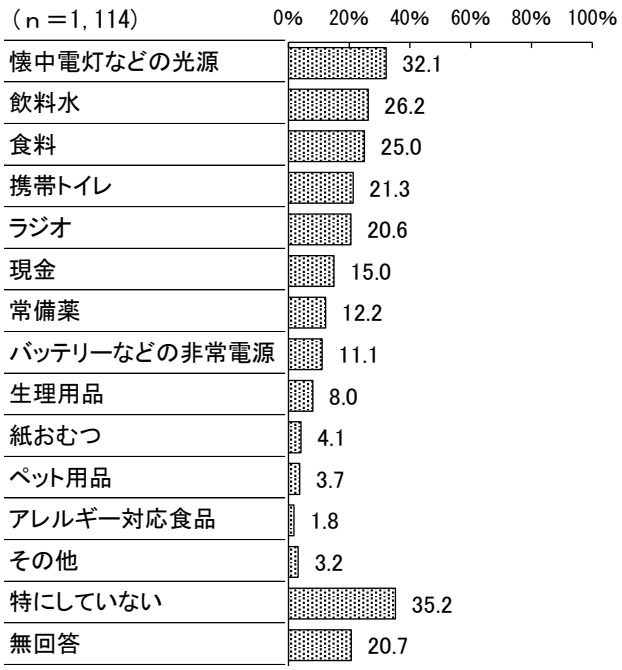
下記の選択肢から家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、（１）家庭内備蓄は、「飲料水」（78.3％）が８割近くと最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」（66.3％）、「食料」（65.6％）、「ラジオ」（42.9％）、「現金」（42.6％）、「常備薬」（39.9％）などの順となっている。一方、「特にしていない」（10.2％）は１割となっている。

（２）非常持ち出し袋は、「懐中電灯などの光源」（32.1％）が３割を超えて最も多く、次いで「飲料水」（26.2％）、「食料」（25.0％）、「携帯トイレ」（21.3％）、「ラジオ」（20.6％）、「現金」（15.0％）などの順となっている。一方、「特にしていない」（35.2％）は３割半ばとなっている。

（１）家庭内備蓄



（２）非常持ち出し袋

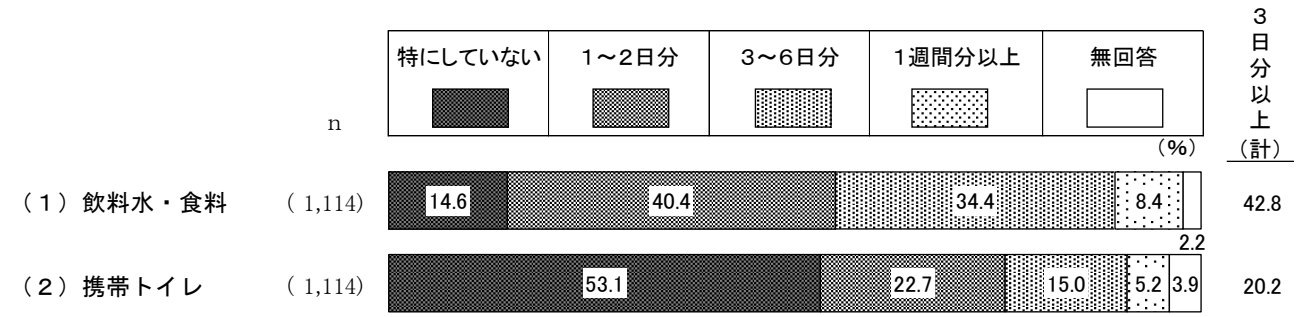


（５）家庭での備蓄量

◇飲料水・食料は『３日分以上』が４割を超える
◇携帯トイレは「特にしていない」が５割を超える

家庭での備蓄量を聞いたところ、（１）飲料水・食料は「３～６日分」（34.4％）が３割半ば、「１週間分以上」（8.4％）が１割近くとなっており、この２つを合わせた『３日分以上』（42.8％）が４割を超えている。一方、「特にしていない」（14.6％）は１割半ばとなっている。

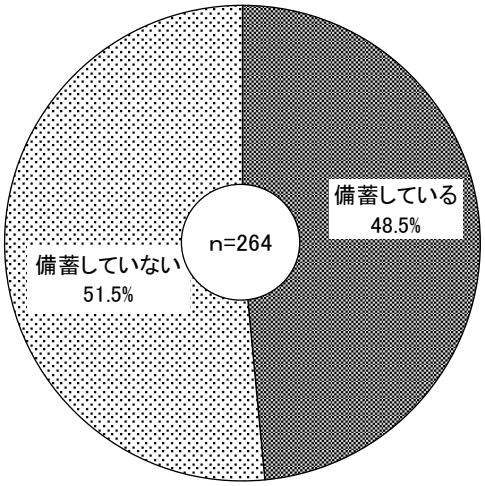
（２）携帯トイレは「１～２日分」（22.7％）が２割を超え、「３～６日分」（15.0％）が１割半ばとなっている。一方、「特にしていない」（53.1％）が５割を超えている。



（６）災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況

◇「備蓄していない」が５割を超える

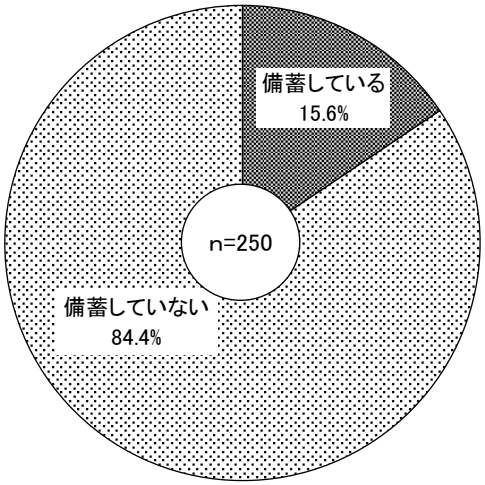
ペットを飼っている方（264人）に、災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」（51.5%）が５割を超えている。



（７）アレルギー対応食品の備蓄状況

◇「備蓄していない」が８割半ば

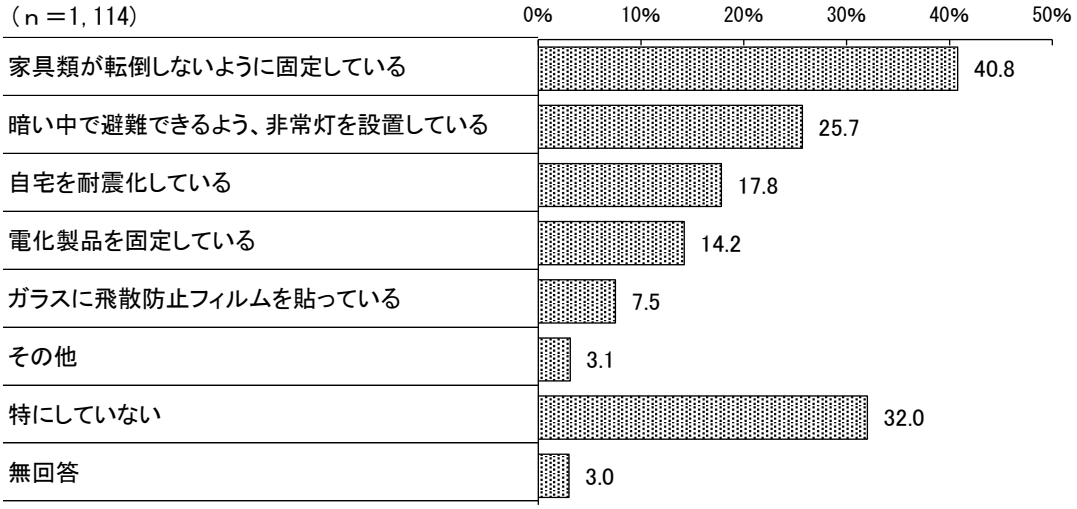
アレルギー疾患のある家族がいる方（ご自身を含む）（250人）に、アレルギー対応食品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」（84.4%）が８割半ばとなっている。



（８）日頃から行っている安全対策

◇「家具類が転倒しないように固定している」が約４割

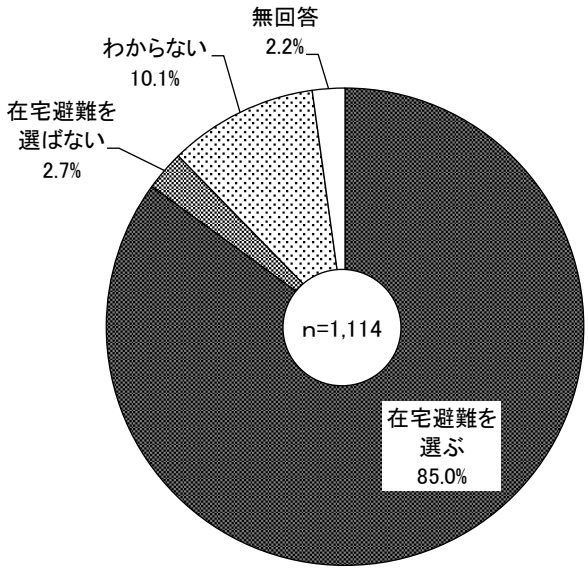
下記の選択肢から日頃から行っている安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」（40.8%）が約４割と最も多く、次いで「暗い中で避難できるよう、非常灯を設置している」（25.7%）、「自宅を耐震化している」（17.8%）、「電化製品を固定している」（14.2%）などの順となっている。一方、「特にしていない」（32.0%）は３割を超えている。



（９）在宅避難の選択

◇「在宅避難を選ぶ」が８割半ば

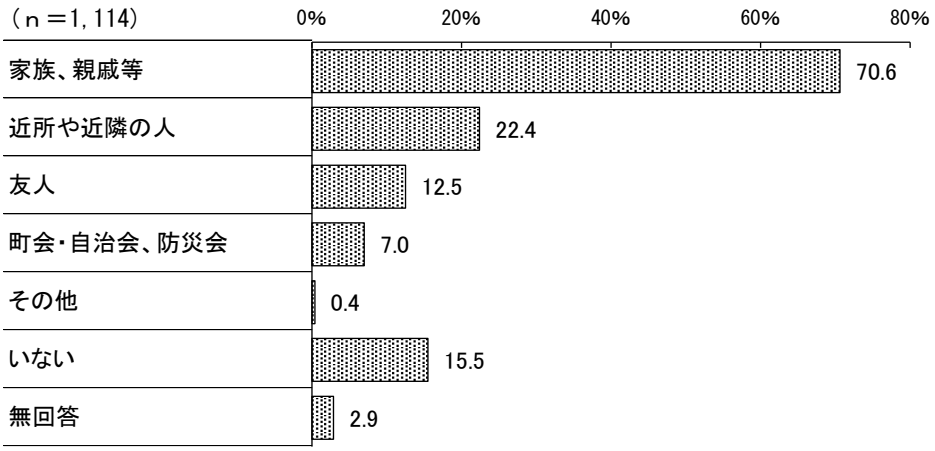
自宅が安全であれば在宅避難を選択するかを聞いたところ、「在宅避難を選ぶ」（85.0%）が８割半ばとなっている。



(10) 在宅避難をする場合に協力しあえる人

◇「家族、親戚等」が約７割

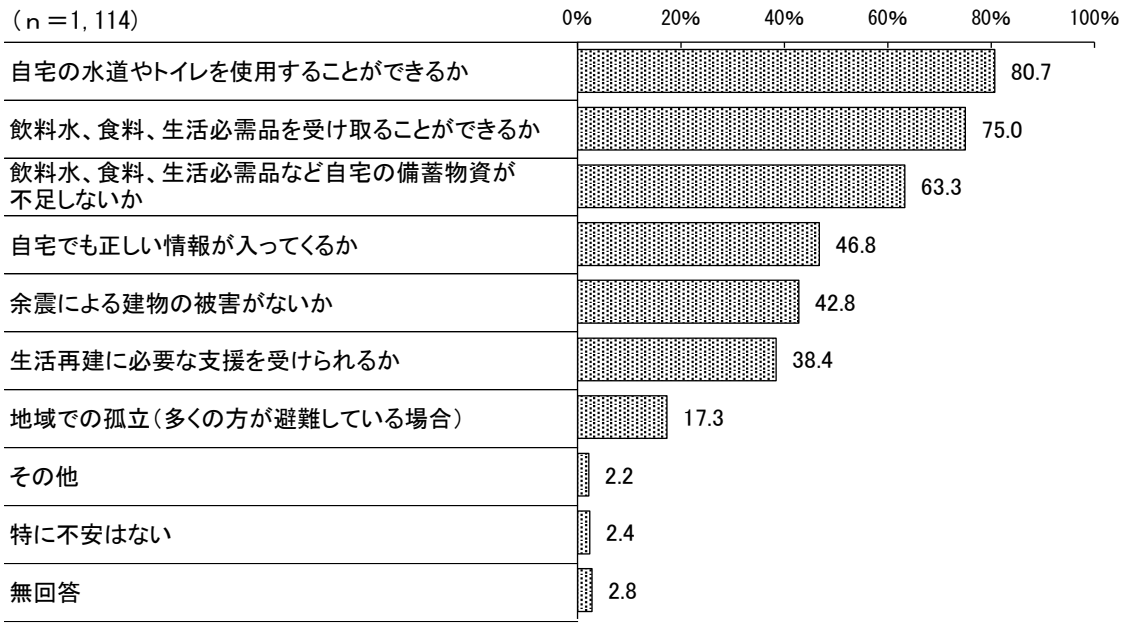
在宅避難をする場合に協力しあえる人がいるか聞いたところ、「家族、親戚等」（70.6%）が約７割と最も多く、次いで「近所や近隣の人」（22.4%）、「友人」（12.5%）などの順となっている。一方、「いない」（15.5%）は１割半ばとなっている。



(11) 在宅避難に不安を感じていること

◇「自宅の水道やトイレを使用することができるか」が約８割

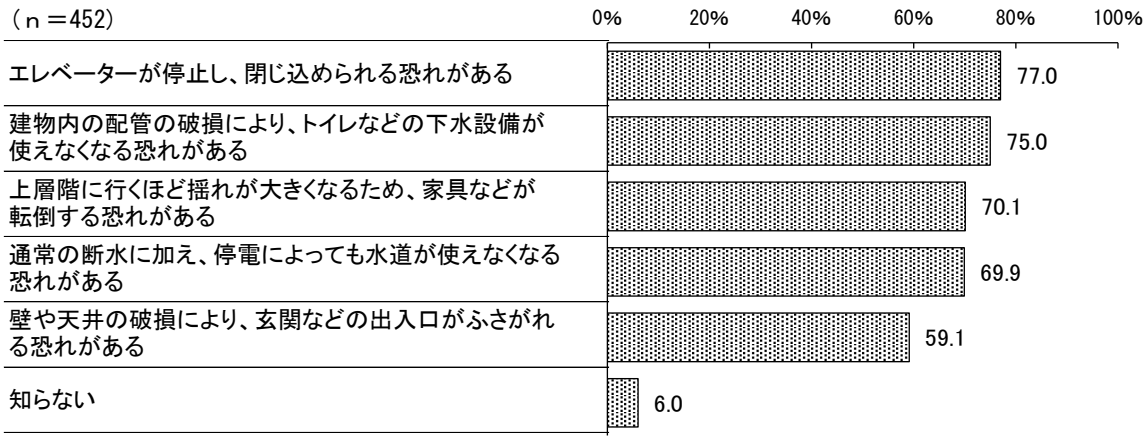
下記の選択肢から在宅避難に不安を感じていることについて聞いたところ、「自宅の水道やトイレを使用することができるか」（80.7%）が約８割と最も多く、次いで「飲料水、食料、生活必需品を受け取ることができるか」（75.0%）、「飲料水、食料、生活必需品など自宅の備蓄物資が不足しないか」（63.3%）、「自宅でも正しい情報が入ってくるか」（46.8%）などの順となっている。



(12) 中高層住宅特有の被害で知っていること

◇「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」が８割近く

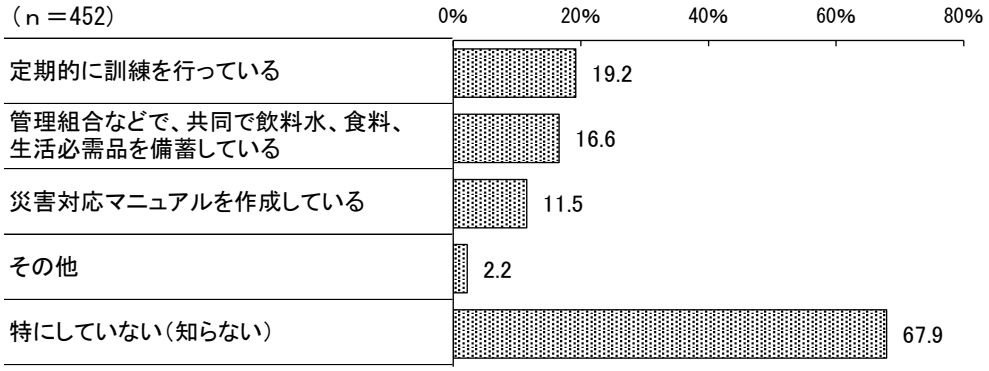
中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（452人）に、中高層住宅特有の被害で知っていることについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」（77.0%）が８割近くと最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」（75.0%）、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」（70.1%）などの順となっている。



(13) 住まいの中高層住宅で行っている対策

◇「特にしていない（知らない）」が７割近く

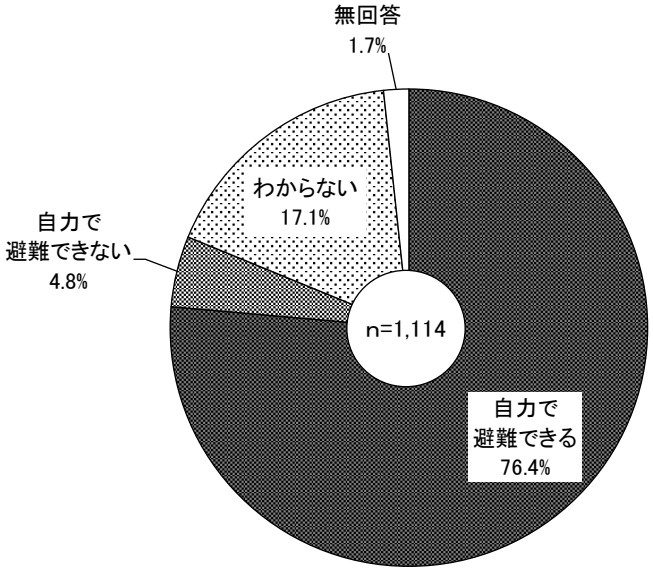
中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（452人）に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的に訓練を行っている」（19.2%）が約２割、「管理組合などで、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」（16.6%）が２割近くとなっている。一方、「特にしていない（知らない）」（67.9%）は７割近くとなっている。



(14) 災害発生時の自力での避難の可否

◇「自力で避難できる」が７割半ば

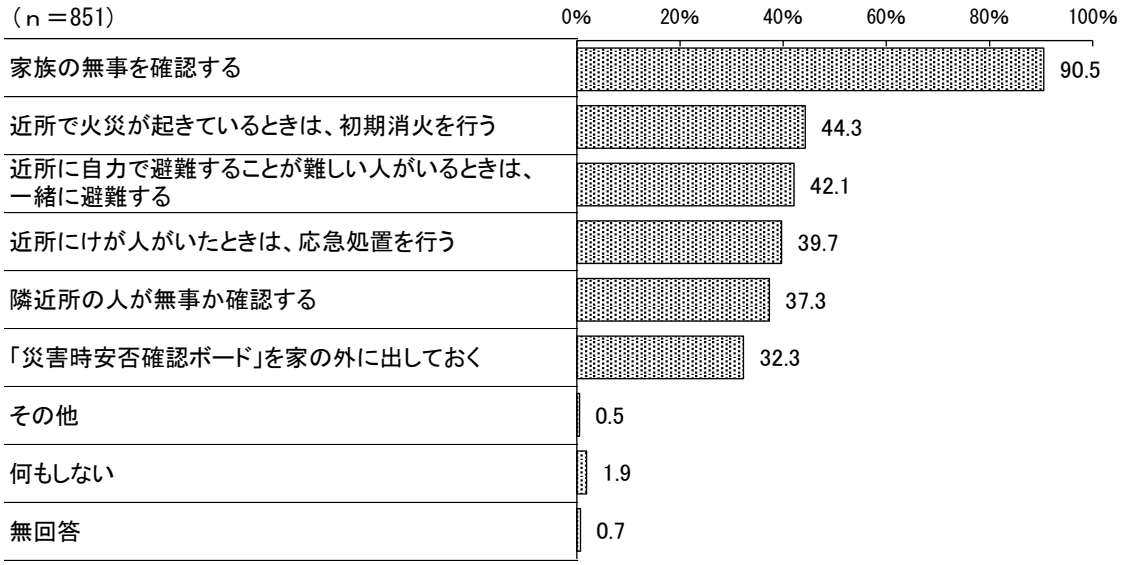
災害発生時に自力で避難ができるかを聞いたところ、「自力で避難できる」（76.4%）が７割半ばと最も多くなっている。



(15) 自力で避難するときの行動

◇「家族の無事を確認する」が約９割

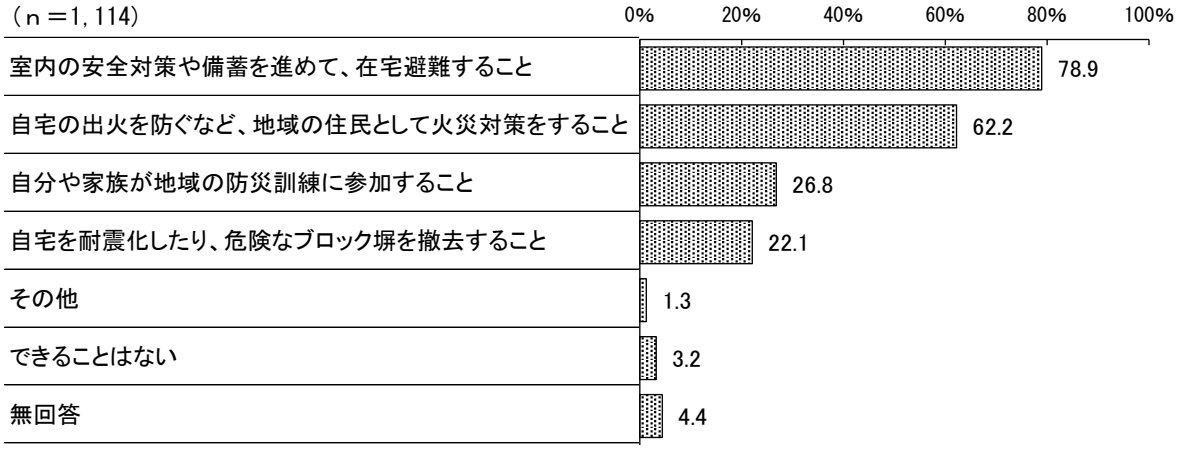
設問（14）で「自力で避難ができる」と答えた人（851人）に、避難するときにどのような行動をするかを聞いたところ、「家族の無事を確認する」（90.5%）が約９割と最も多く、次いで「近所で火災が起きているときは、初期消火を行う」（44.3%）、「近所に自力で避難することが難しい人がいるときは、一緒に避難する」（42.1%）、「近所にけが人がいたときは、応急処置を行う」（39.7%）などの順となっている。



(16) 自分のまちを守るためにできること

◇「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」が８割近く

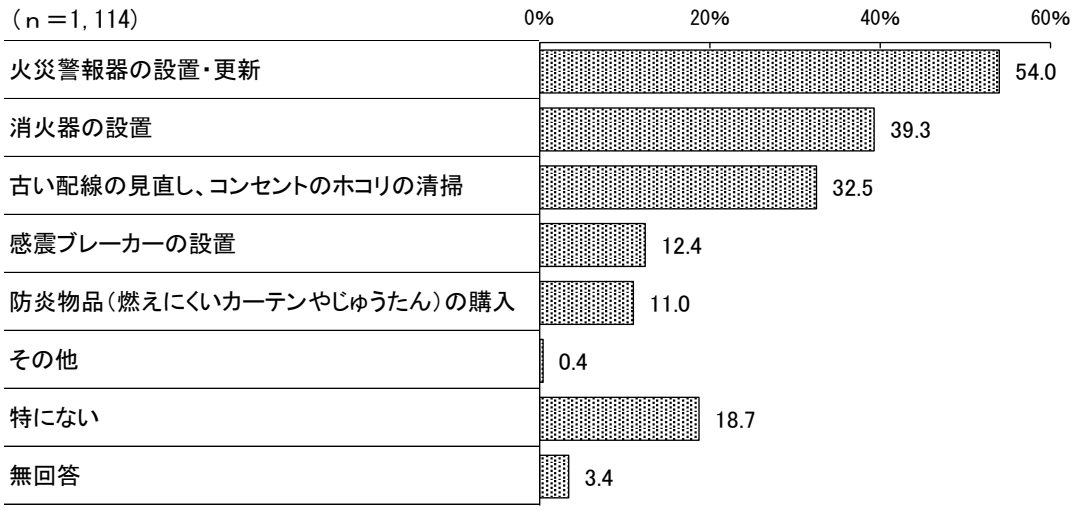
下記の選択肢から自分のまちを守るためにできることについて聞いたところ、「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」（78.9%）が８割近くと最も多く、次いで「自宅の出火を防ぐなど、地域の住民として火災対策をすること」（62.2%）、「自分や家族が地域の防災訓練に参加すること」（26.8%）などの順となっている。



(17) 自宅で行っている火災対策

◇「火災警報器の設置・更新」が５割半ば

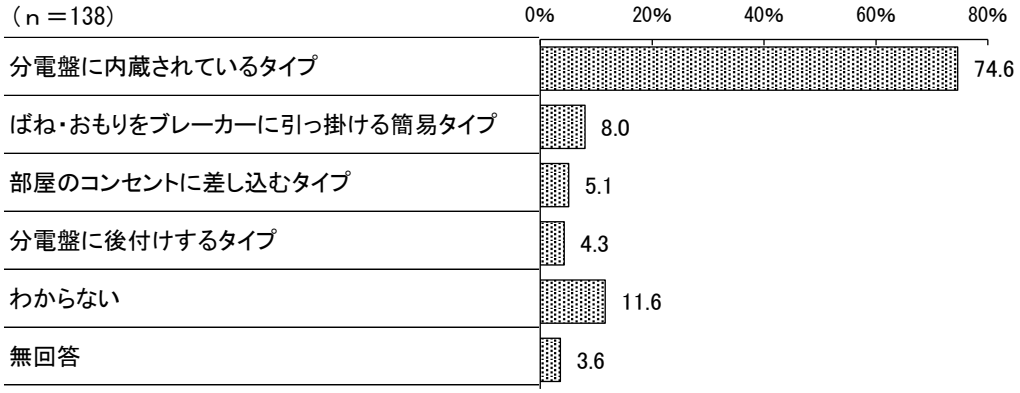
下記の選択肢から自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」（54.0%）が５割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」（39.3%）、「古い配線の見直し、コンセントのホコリの清掃」（32.5%）、「感震ブレーカーの設置」（12.4%）などの順となっている。



(18) 感震ブレーカーの設置タイプ

◇「分電盤に内蔵されているタイプ」が７割半ば

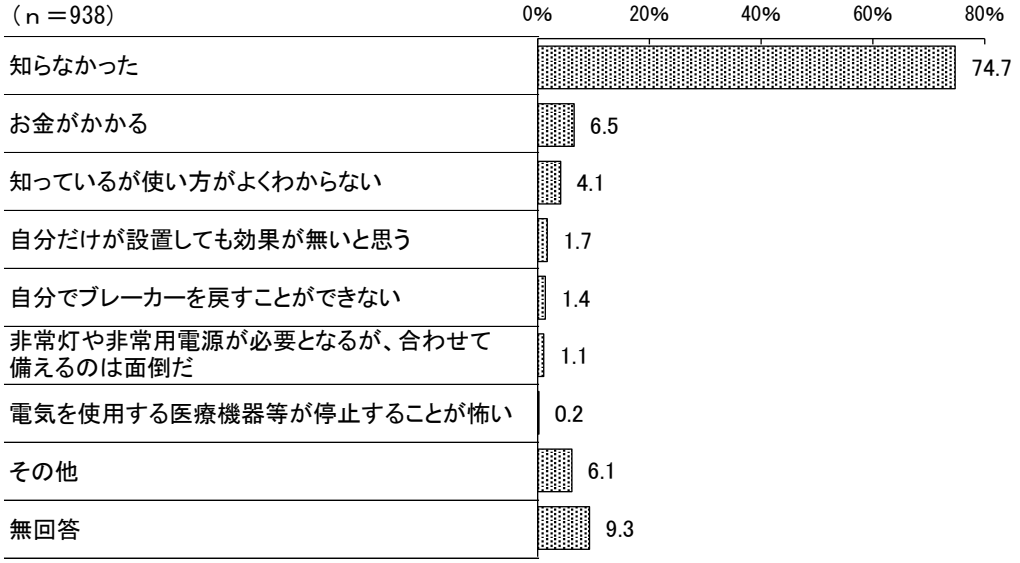
設問（17）で「感震ブレーカー」と答えた人（138人）に、感震ブレーカーの設置タイプを聞いたところ、「分電盤に内蔵されているタイプ」（74.6%）が７割半ばと最も多く、次いで「ばね・おもりをブレーカーに引っ掛ける簡易タイプ」（8.0%）、「部屋のコンセントに差し込むタイプ」（5.1%）などの順となっている。



(19) 感震ブレーカーを設置していない理由

◇「知らなかった」が７割半ば

設問（17）で「感震ブレーカー」と答えなかった人（938人）に、感震ブレーカーを設置していない理由を聞いたところ、「知らなかった」（74.7%）が７割半ばと最も多く、次いで「お金がかかる」（6.5%）、「知っているが使い方がよくわからない」（4.1%）などの順となっている。



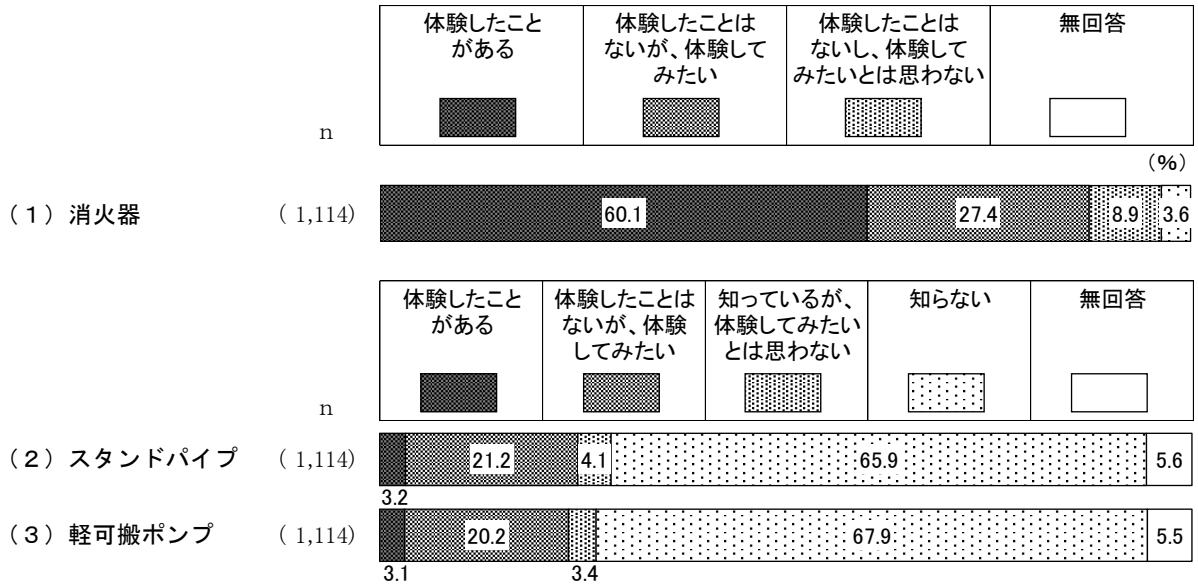
(20) 消火器具の操作訓練の体験

◇消火器は「体験したことがある」が６割
◇スタンドパイプ、軽可搬ポンプは「体験したことがある」がわずか

消火器具の操作訓練を体験したことがあるかを聞いたところ、（１）消火器は「体験したことがある」（60.1%）が６割、「体験したことはないが、体験してみたい」（27.4%）が３割近くとなっている。

（２）スタンドパイプは「体験したことがある」（3.2%）はわずかとなっている。一方、「知らない」（65.9%）が６割半ばとなっている。

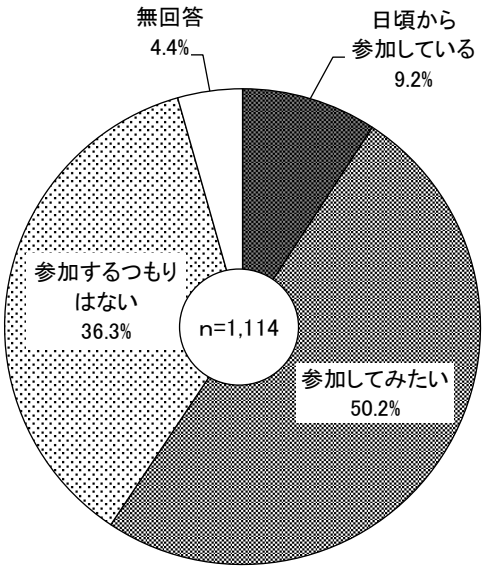
（３）軽可搬ポンプは「体験したことがある」（3.1%）はわずかとなっている。一方、「知らない」（67.9%）が７割近くとなっている。



(21) 地域の防災活動の参加経験

◇「参加してみたい」が５割

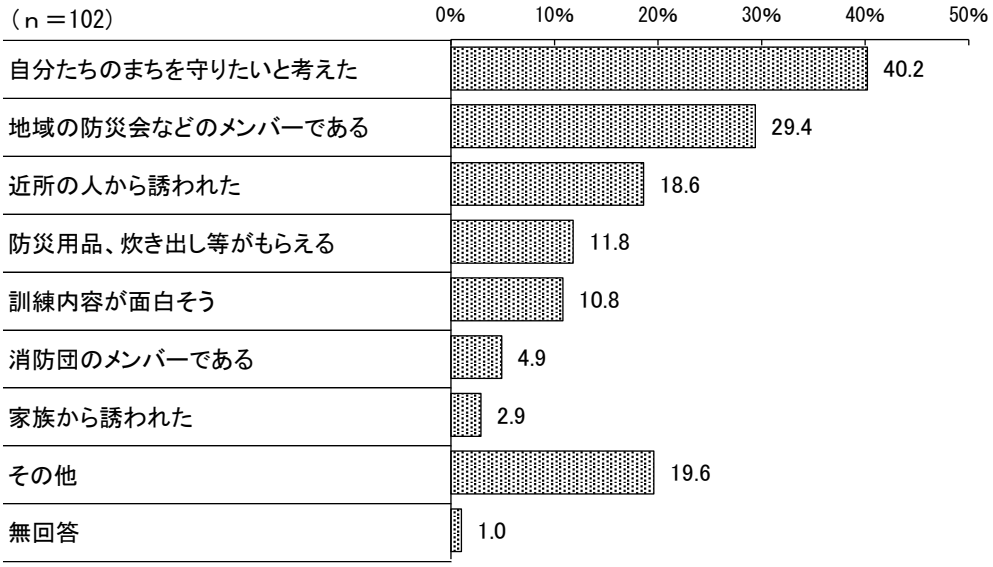
地域の防災活動の参加経験を聞いたところ、「日頃から参加している」（9.2%）が約１割、「参加してみたい」（50.2%）が５割となっている。一方、「参加するつもりはない」（36.3%）は３割半ばとなっている。



(22) 地域の防災活動に参加したきっかけ

◇「自分たちのまちを守りたいと考えた」が４割

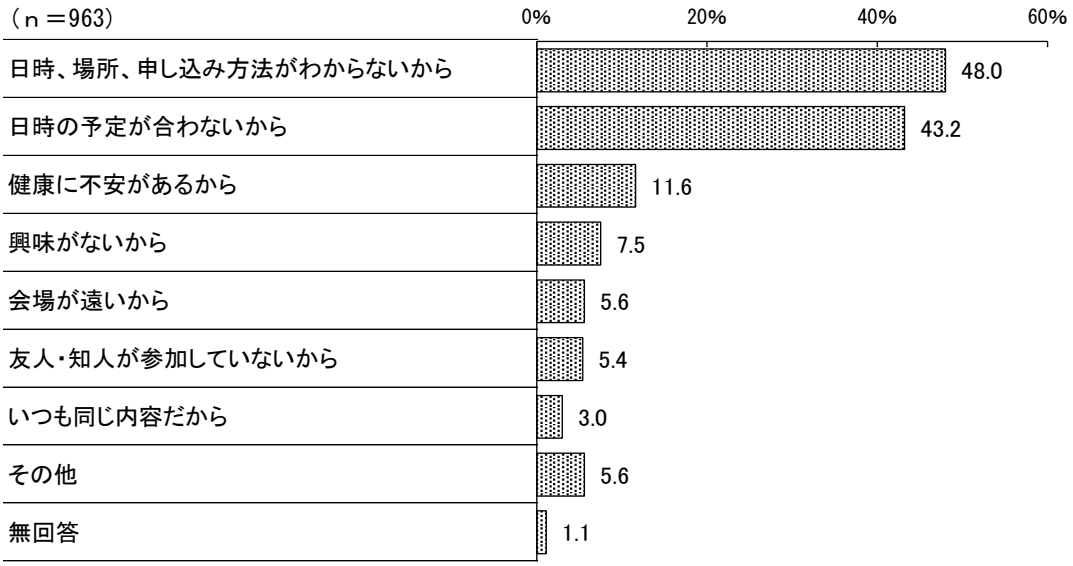
設問（21）で「日頃から参加している」と答えた人（102人）に参加したきっかけを聞いたところ、「自分たちのまちを守りたいと考えた」（40.2%）が４割と最も多く、次いで「地域の防災会などのメンバーである」（29.4%）、「近所の人から誘われた」（18.6%）、「防災用品、炊き出し等がもらえる」（11.8%）などの順となっている。



(23) 地域の防災活動に今まで参加していない・参加するつもりがない理由

◇「日時、場所、申し込み方法がわからないから」が５割近く

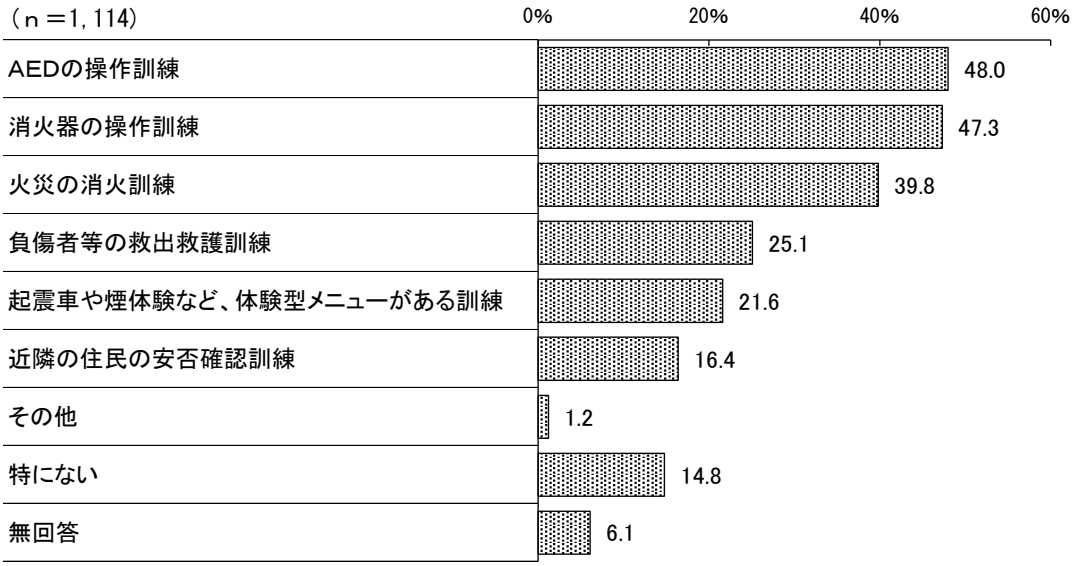
設問（21）で「参加してみたい」、「参加するつもりはないと答えた人（963人）に今まで参加していない理由、参加するつもりがない理由を聞いたところ、「日時、場所、申し込み方法がわからないから」（48.0%）が５割近くと最も多く、次いで「日時の予定が合わないから」（43.2%）、「健康に不安があるから」（11.6%）などの順となっている。



(24) 体験したい防災訓練

◇「ＡＥＤの操作訓練」が５割近く

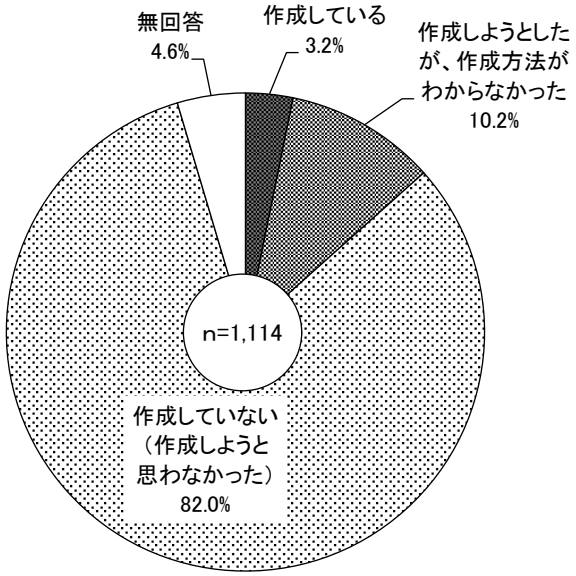
下記の選択肢から体験したい防災訓練について聞いたところ、「ＡＥＤの操作訓練」（48.0%）が５割近くと最も多く、次いで「消火器の操作訓練」（47.3%）、「火災の消火訓練」（39.8%）、「負傷者等の救出救護訓練」（25.1%）などの順となっている。一方、「特にない」（14.8%）は１割半ばとなっている。



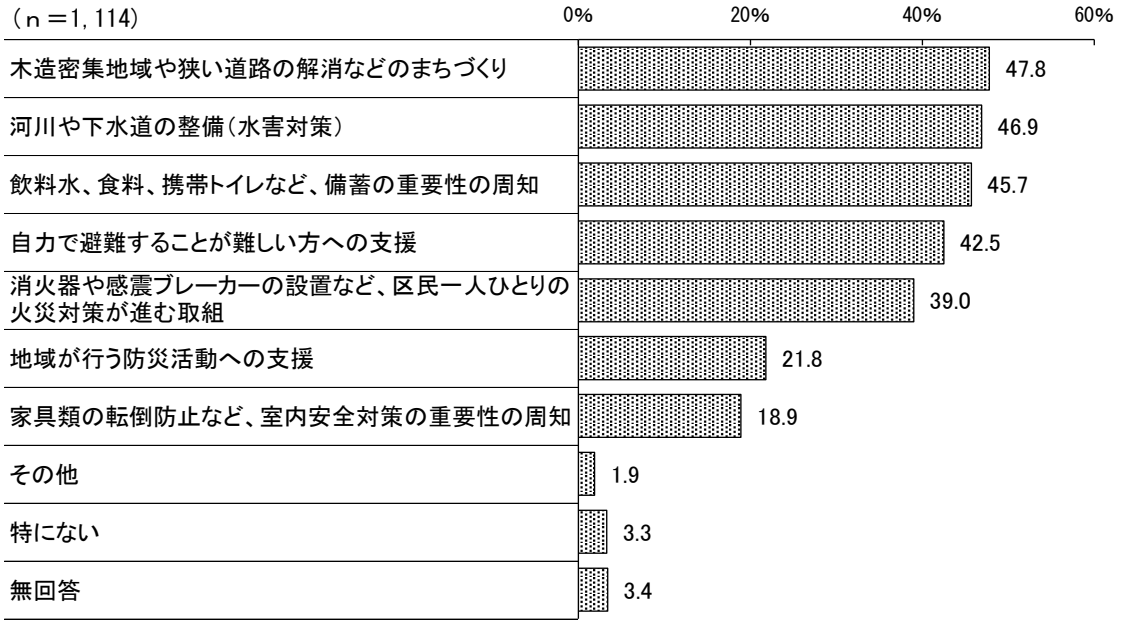
(25) 水害に備えて自らの行動計画の作成状況

◇「作成していない（作成しようと思わなかった）」が８割を超える

水害に備えて自らの行動計画の作成状況を聞いたところ、「作成している」（3.2%）はわずかとなっており、「作成しようとしたが、作成方法がわからなかった」（10.2%）が１割となっている。一方、「作成していない（作成しようと思わなかった）」（82.0%）が８割を超えている。



(26) 区に取り組んでほしい防災対策

◇「木造密集地域や狭い道路の解消などのまちづくり」が５割近く

下記の選択肢から区に取り組んでほしい防災対策について聞いたところ、「木造密集地域や狭い道路の解消などのまちづくり」（47.8%）が５割近くと最も多く、次いで「河川や下水道の整備（水害対策）」（46.9%）、「飲料水、食料、携帯トイレなど、備蓄の重要性の周知」（45.7%）、「自力で避難することが難しい方への支援」（42.5%）などの順となっている。